

映画研究部

映画鑑賞

レポート

平成 28 年度

11 月分

- 10320 「金メダル男」
- 10738 「ミュージアム」
- 10741 「ミュージアム」
- 10802 「ハリー・ポッターと賢者の石」
- 10831 「何者」
- 20725 「ミュージアム」
- 20727 「ナイトミュージアム」
- 20836 「デスノート **Light up the NEW world**」

## 鑑賞レポート 10320

映画名「金メダル男」

評価 10／10

ストーリー（ネタバレあり）

1964年に長野県に生まれた秋田泉一は、小学校の運動会のかけっこで一等賞をとったことをきっかけに、一番になることの幸福感にとりつかれる。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

友達がおもしろいと言っていたので、観に行きました。作品はとても面白かったです。主人公の秋田泉一が必死になって一位をとるために頑張っている所がとてもかっこよかったです。少し上手くいったことで簡単に調子に乗ったり、大切なものはすぐ近くにあったことに気づいたり、ふとした時に初心を思い出したり、人生って色々あるなーって思いました。周りの人から変な目で見られても、友達がいなくても1人で自分の夢にむかって頑張っている所が感動しました。

主演も監督もしている内村光良さんが、すごいなあと思いました。とてもおもしろい作品でした。

今月の鑑賞映画報告

金メダル男

評価 5／5

とてもおもしろい作品でした。

## 鑑賞レポート 10738

映画名「ミュージアム」

評価 9／10

ストーリー（ネタバレあり）

雨の日に決まって起きる連続殺人事件。事件現場には、変死体と「～刑」と書かれた紙が一枚残されている。この事件を担当している刑事の沢村久志（小栗旬）は、事件の謎を追ううちに自分の妻が最後のターゲットであることを知る。

果たして沢村久志は妻と子供の命を救うことができるのか…？

鑑賞レポート（ネタバレあり）

私は、この映画の予告動画を見て、おもしろそうだったので友達と一緒に映画館に行きました。この映画は予告で観たとおり、グロテスクなシーンが多くて、人が殺されている場面などをすごくリアルに表現されているし、出演者の人たちの演技などがすごく上手だったので、さらに怖く感じました。

そして映画の内容も頭を使いながら見てしまうストーリーで、なぜかカエル男（妻夫木聡）は雨の日にしか人を殺さないのか、殺されている人たちの共通点は何なのか、など考えていて、最後にはすべての謎が解けてスッキリしたし、沢村久志（小栗旬）は妻と子供を助けることができるのかという緊張感もあって、すごくいろんな感情になれる映画でした。

この映画は上映時間が長くて、怖いシーンが多くので、怖いのが好きな人はぜひ観てほしいです。

今月の鑑賞映画報告

ミュージアム

評価 5／5

グロテスクなシーンが多かったけど、すごく面白かったです。

## 鑑賞レポート 10741

映画名「ミュージアム」

評価 10/10

ストーリー（ネタバレあり）

雨の日だけに起きる連続猟奇殺人事件。いつもそこには「～の刑」と書かれている紙1枚がおいてある。その事件の犯人は、通称、カエル男と呼ばれている謎の男。そしてこの連続殺人事件の1つの共通点を見つけ、沢村久志（小栗旬役）の妻がそれに関わっていることに気づき、カエル男の最後のターゲットが沢村久志の妻と子供だと知る。たった1つの共通点は何なのか。そして妻と子供は生きて生きて帰ってこれるのか。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

私は友達と予告動画を観て、とても面白そうだったので観に行きました。予告動画を見てから、とても恐ろしくて怖いなぁと思いました。そして他の友達からもとても怖いと言われました。私はこういう怖い系は苦手なので、余計に怖くなりました。でも実際に観てみると、恐ろしい場面や少し気持ちの悪い場面もありましたが、最後の終わり方など、とても良かったです。

一番恐ろしかったところは、殺された人それぞれの殺され方でした。1人は「ペットフードの刑」だったり、もう1人は「針千本の刑」だったりで、その殺された人の映像がはっきりと映し出されたので、思わず顔を背けてしまいました。

でもこの映画は恐ろしい場面だけでなく、とても感動する所もあり、どんだけ怖くても、観て良かったなぁと思いました。次もこわくても観るのを挑戦したいと思います。

今月の鑑賞映画報告

ミュージアム

評価 5 / 5

こわかったけど、とても面白かった！

## 鑑賞レポート 10802

映画名「ハリー・ポッターと賢者の石」

評価 10/10

ストーリー（ネタバレあり）

10年前に両親が亡くなった後、ロンドン近郊のサレーに住むダーズリー一家に引き取られてから数年がたった。ハリーはいつものように軽蔑されていました。ある日、ダーズリー一家に手紙が届きました。魔法学校ホグワーツからでした。ダーズリー一家はその手紙をハリーに渡さないようにしていました。そんなダーズリー一家についてハグリッドが家まで来て、ハリーは生まれて初めて魔法を知りました。この頃のハリーにとってマグルの世界と魔法界は全然違って、愛しいペットや杖と出会いました。そして軽蔑されていたハリーは、それ以上に大切な親友ロンやハーマイオニーと出会い、本当に楽しい日が毎日続いていました。だが、そんなハリーのおでこには名前を言ってはいけないあの人ののろいがかかっているのです。さあ、その呪いとは何なんだろうか？

鑑賞レポート（ネタバレあり）

私は本当にハリー・ポッターが好きで、本も一冊だけ映画が公開される前に読んだ「死の秘宝」など、どれも面白さが欠けないシリーズでした。そしてこの前、地デジでみた「賢者の石」ではハリーの初々しい行動がいつ見ても良いなあと感じました。そう、皆幼くてとても可愛いんです。後は、ハリーが初めてダイヤモンド横町に来た時の金庫のシーンは「金持ちすぎるだろ」とつつこみたくなりました。しかもその金の使い道のほとんどがお菓子だという所も面白かったです。私の好きなキャラクターはネビルです。ハリー・ハーマイオニー・ロンの3人の行動のような素晴らしさとは別に、グリフィンドール皆のために自分1人で3人に向かって「行かせないよ」と言ったシーンは本当に「カッコイイなあ」と思いました。また死の秘宝では爆発する橋の作戦や、最終的にボルでモーとを倒したのもネビルのおかげです。あと小さい時に見ていて面白いなと思ったシーンは、トロールの所です。ロンがウィンガーリアムレビオサーを唱えて棍棒を空中に浮かした時のトロールのなの間抜けな顔が好きです。でもその後の鼻水ベトベト杖は気持ち悪かったです。また私はファンタスティック・ビーストの映画と本で発売された「呪いの子」の方もとても気になりますファンタクティック／ビーストは生物の先生の話で別視点っぽくて面白そうですし、「呪いの子」は続編なので期待値MAXです。最後にハリー・ポッターはどのシリーズも面白いので、この感想を観た人は是非読んでほしいです。

## 鑑賞レポート 10831

映画名「何者」

評価 8/10

ストーリー（ネタバレあり）

就活に忙しい毎日を送る拓人（佐藤健）の元に就活仲間として大学時代の友達端月（有村架純）と拓人とルームシェアをする光太郎（菅田将暉）、端月の友達の理香（二階堂ふみ）と就活を頑張っていくが、後から参加した端月、光太郎が先に内定をもらい、加えて自分のしていた演劇のことや **Twitter** でも拓人の裏アカが理香にばれてしまい拓人は…

鑑賞レポート（ネタバレあり）

主人公の拓人がすごく今の若者の典型的な感じで何かあったら **Twitter** を開いて、拓人の場合は裏アカウントにかきこんで、自分の言えない心の内をはき出していて、現代っ子感がすごかったです。まだ私は就活とか関係ないけど、することになったら、この映画と同じでやっぱり先に内定が決まった友達とかに嫉妬してしまうのかなと思いました。何者は観ていて拓人のような友達もいるし、理香みたいな友達もいるしで、なんだか身近に感じました。現実味があって、人間関係がすごくあらわになる作品で、みどころがたくさんありました。そんな中でも、やはり恋愛が関わってくるとかなり人が変わってくるのが、実際にもそうなので、共感できる所がありました。「何者」の原作があるということなので、原作の方の小説も是非読みたいと思っています。

今月の鑑賞映画報告

何者 評価 3/5

少し難しかったけど、面白かったし、現代社会感がすごかったです。

進撃の巨人 評価 3/5

原作とは違うものとして楽しめます。

進撃の巨人 エンド・オブ・ザ・ワールド 評価 3/5

終わり方がすごかったです。

## 鑑賞レポート 20725

映画名「ミュージアム」

評価 10/10

ストーリー（ネタバレあり）

事件現場に謎のメモが残される猟奇殺人事件が矢継ぎ早に発生。その事件の共通点と言えば、すべて雨の日のみに怒っていた。一連の事件の関連性を察知した小栗旬演じる沢村刑事は、自分の妻と息子が狙われていることを知る。調査を進めていくうちにカエルのマスクをかぶったカエル男の存在が浮かび上がり、犯人に近づいていく沢村刑事。しかしカエル男の仕組んだ罠にはめられ、絶体絶命。愛する妻子の無事を信じて、カエル男のお遊びに付き合う。果たして、カエル男は何のためにこのような事件を起こしたのか、沢村家はどうなってしまうのか……。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

この映画は、一言で言うと、見ごたえ抜群です。そして、見終わったときには、少し気分が悪くなっていました。それほど、酷いシーンが多かったです。

私が印象的な刑は、「母の痛みを知りましょう〜の刑」です。いい年になっても、母の稼ぎでニート生活を送っている男性のもとに、カエル男がいきなり現れ、その男性の出生体重分の肉をそぎとり、殺してしまうのです。とてもグロテスクでした。

主人公の妻と息子も、カエル男の標的となり、カエル男をつきとめていくなかで、主人公自身がたくさん考えさせられている部分にも見入ってしまいました。

この映画は、ミステリー要素や家族愛の要素や社会問題などがすべて詰まっていて、それらがつながっていることがすごいなと思いました。一番印象に残ったメッセージは、悪意はずっと残り続けるということ。映画のラストまでずっとカエル男の「悪意」が残り続けていて、本当にゾクッとしました。映画の終わり方が主人公の息子が運動会で首のあたりをかいていて、その動作は、カエル男が日光アレルギーと分かった時と同じだから、息子ももしかしたらカエル男のようになってしまうかも知れないというメッセージのような気がするので、続編を期待したいです。



## 鑑賞レポート 20727

映画名「ナイトミュージアム」

評価 /10

ストーリー（ネタバレあり）

妻と離婚し、子供とも別々に暮らしているラリー・デリーは失業中だった。色々な職を転々としていたが、自然博物館の夜警の仕事を得た。しかし、その博物館では夜になって日が落ちると、展示品達が勝手気ままに動き回る不思議な現象が起こっていた。ある日、他の夜警の人達が高価な展示品を盗み出そうとしていた。その企みを知ったラリーは息子のニッキーとともに阻止しようと奮闘するが、2人は古代エジプトのエリアに閉じ込められてしまう。展示品を盗もうとしている夜警リーダーのセシルとその仲間達は「アクメンラーの石板」を盗んだことで若さと力を手に入れた。博物館の展示品と協力して、なんとか「アクメンラーの石板」を取り戻すことに成功する。大変な一晩だったが、騒動により再び来場者で賑わうようになり、ラリーは展示品達と共に楽しい博物館での生活を送っていく。

鑑賞レポート（ネタバレあり）

ラリーは仕事が長く続かないなどの理由で妻のエリカに愛想をつかさ、大好きな息子ニッキーは親しい父親になついていた。その息子に良い所をみせようと新しい職場の博物館へ招待したが、目の前でクビになってしまった。だが、不思議な博物館の体験で、父親への信頼が戻った。博物館の展示品達は、当時の特徴や性質のまま生活していて、ラリーはそれぞれの歴史を勉強することで対策を考え、扱い方を学んでいた。女性館員のレベッカにも協力してもらい、備品や秘密兵器を準備しているシーンはとても印象的でわくわくした。アインシュタインやセオドア・ルーズベルト、ティラノザウルスやジオラマなど知っている人物や動物が出ていたので、とても面白かった。

太陽の光を浴びると灰になってしまう展示品達を守ろうと、ラリーとニッキーは頑張っていたが、一体だけ興味本位で外に出てしまい、助けられなかった。一瞬で灰になって消えたその原人は **103** 分の映画の中で一番切ないシーンだった。

主演のベン・スティラーはよくおもしろいコメディ映画に出ているので、今回、この映画を観ようと思ったが、期待通り楽しい気持ちになれる映画だった。

映画名「デスノート **Light up the NEW world**」

評価 10/10

ストーリー

ノートに名前を書かれた人間は必ず死ぬという「デスノート」を操り、世の中を震撼させた夜神月、通称キラによる大量殺人事件と名探偵“L”の活躍から **10** 年。世界には再び原因不明の突然死事件が頻発するようになっていた。地上におとされた新たな6冊のノートの存在が判明し、日本のデスノート対策本部に、新生キラからのメッセージが届く。キラ事件を熱心に追い、熱心に捜査を行う三島（東出昌大）を筆頭に、新たに **ICPO** から事件解決に向けて送り込まれた竜崎（池松莊亮）が、事件の解決に向けて動き出す。新生キラとは誰なのか。そして三島と竜崎はキラによる大量殺人事件を再び解決することが出来るのか？

キラと竜崎たちの戦いが再び切って落とされた！

鑑賞レポート

私は **2006** 年に公開された藤原竜也と松山ケンイチが主人公の『デスノート』が映画の中でもとても好きで、続編で『**Light up the NEW world**』が公開されると予告でみたとき、私は絶対見に行きたい！と思っていた映画です。

この映画を観た感想は、ぶっちゃけとても内容が難しいなと感じました。前作を観ていて、なおかつきっちりと内容を理解していないとなかなか難しい映画だなと思いました。今回の映画では、人間界に **6** 冊のデスノートが落とされ、新しい死神も登場しました。それぞれ個性的でとても面白かったです。あと、登場人物として、私は池松莊亮が演じた『竜崎』が他の新キャラクターよりも一番好きになりました。彼は松山ケンイチが演じたLの後継者なので、前作のLに引っ張られがちな設定にあるが、Lとは違った感じの前衛的で個性のあるキャラクターになってました。それでもひょっとこのお面をつけていたりして、彼、Lを尊敬している部分もあって良かったなと思いました。

私はこの映画は、前作を観ていない人にはオススメ出来ませんが、観たいという人には是非観てほしい作品です。ちなみに私は、もう一度観たいなっと思いました。(笑)

